



令和3年度 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

日時	令和4年2月18日(金) 午後2時45分～4時30分
テーマ	地域経済の未来を考える ～ふくしまの地域創生を語る！～
場所	バル・カーサ カサレス
出席者	<p>福島市と包括連携協定を締結している企業の若手職員の皆さま 計13名</p> <p>(1) 株式会社東邦銀行 石井 美佳さん (2) あいおいニッセイ 同和損害保険株式会社 井戸 大智さん (3) 国立大学法人福島大学 岩下 悟士さん (4) 明治安田生命保険相互会社 内堀 裕介さん</p> <p>(5) 株式会社ヨークベニマル 大町 諒さん (6) 大塚製薬株式会社 大柳 琴さん (7) 福島信用金庫 菅野 志穂さん (8) 日本郵便株式会社 菊地 昭宏さん</p> <p>(9) 三井住友海上火災保険株式会社 佐藤 海帆さん (10) イオン東北株式会社 森谷 直樹さん (11) 福島財務事務所 渡邊 美和子さん (12) 損害保険ジャパン株式会社 渡邊 優希さん</p> <p>(福島市) 木幡 浩 市長</p>

【1 市長あいさつ】

皆様には、それぞれの立場で福島のまちづくりにご貢献をいただいていること、厚く御礼を申し上げます。福島市は大震災以降も台風19号や昨年の福島県沖地震、そしてコロナ禍、いろんな面で災難が相次いでいます。しかし、災難には全力で対応すると同時に、この災難を飛躍のばねに変えて福島のまちづくりを進めるために、これまで取り組んできました。こういうときほど地域の弱みも見つかりますので、強くすることで、逆にアドバンテージになれるわけですね、そうした意気込みで私はやってきました。

震災以降、世界から応援をいただいて復興を進めてきましたが、今回オリンピックで感謝を伝えると同時に、我々は逆に世界にモデルになるような町をつくることによって恩返しをできるんじゃないだろうか、こんなつもりで福島市の目指す姿を「世界にエールを送るまち」と標榜しているわけであります。

もちろん、世界のためにやるのではなく、第一には地域の皆さんにずっと住んでいたいと思ってもらえる町、他の地域の人たちに福島市っていいなと思ってもらえる町にするということを大前提に進めているわけであります。

今日は連携している企業の皆さんにどんなふうに福島市が映っているのか、福島のまちづくりあるいは地域経済、こんなふうにしたらいんじゃないだろうかということ、どうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。



【2 主な発言内容】

※●…出席者意見 ○…市長意見

(1) 自己紹介

●株式会社東邦銀行 石井 美佳さん

法人コンサルティング部公務・地域商社事業課に所属し、地方創生・地域活性化全般に関わるような仕事をしております。具体的には、創業支援や事業者さんの販路開拓支援の他、各自治体と協働しながら様々な事業に取り組んでいます。

協定での取り組みとしては、若者の人口減少の課題に対し、福島市との共同で市内の高校生向けに企業見学会を実施して、福島市にどんな企業があるか知ってもらう機会に繋がりました。

●あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 井戸 大智さん

当社の保険を扱っている代理店様へのリスクコンサルティング営業や、保険を扱っていただける新しい代理店様を探すといった、新規開拓の営業をさせていただいております。

協定では、当社は333の地方自治体と地域包括連携協定を結んでおり、福島市とは、ふるさと納税やセミナー開催、また当社社員によるボランティアの参加等がございます。

●国立大学法人福島大学 岩下 悟士さん

留学生の受入れや学生の留学の派遣のお手伝いや、受入れをしている留学生たちの各種支援をやっていきます。

協定の取り組みとしては、本学の学長と市長で年2回の直接講話をやらせていただいております。また、各委員や会議のアドバイザーに、本学の教員が参加させていただいたり、市のイベントに本学の学生を動員したり、学生をピックアップして紹介したりと連携をさせていただいております。

●明治安田生命保険相互会社 内堀 裕介さん

全国各地に配置された保険の職員のコンサルティングをするという仕事をさせていただいております。特に、「人に健康を、町に元気を」というコンセプトで仕事をさせていただいております。地元の皆さまの健康またはスポーツというところでは、「リーグとタイトルパートナーと提携をさせていただいておりますので、「リーグを通じてスポーツといった形で健康を増進していくという取り組みをしており、中学校にサッカーボールの寄贈等させていただいております。

●株式会社ヨークベニマル 大町 諒さん

日々来店されるお客様の食を豊かにするという一方で、おいしいものやいいものを日々、毎日ご提供できるように業務に当たっております。

地域包括連携協定といたしましては、地産地消の推進であったり、市産品の販路の拡大、またはオリジナル商品の開発、販売、また災害対策であったり各分野にわたって連携しております。

●大塚製薬株式会社 大柳 琴さん

医薬品を扱う医薬品事業部と一般の方々向けの消費を扱っているニュートラシューティカル事業部と大きく2つの部門に分かれています。医薬品事業部のほうで、市内の開業医や病院を回って中枢神経に関わる薬剤のお話をしているというところでございます。

包括連携協定での取り組みに関しましては、メインがニュートラシューティカル部門になるのですが、市民の方々にお役立ていただけるような情報を提供したり、防災訓練での啓発だったり、スポーツ振興でマラソン大会の共催をさせていただいたりしております。

●福島信用金庫 菅野 志穂さん

主に窓口で個人のお客様、法人のお客様問わずいろいろなお手伝いを窓口でさせていただいています。

包括連携協定での取組内容ですが、主に福島信用金庫として「ふくしん夢の音楽堂」として福島市音楽堂のネーミングライツパートナーに指定させていただいておりまして、音楽祭などの開催、大森小学校をはじめとしたマネースクールの開催や絵画のコンクール、子ども応援賞など、子どもたちの教育支援に力を入れさせていただいております。

●日本郵便株式会社 菊地 昭宏さん

郵便、貯金、保険、物販といった商品を通じまして、皆さまの暮らしをサポートする仕事をさせていただいております。

包括連携協定ですが、コロナワクチンの接種予約の手伝いを市内10局でさせていただいているのが大きな取組みの一つです。他にもエールクーポンの販売窓口や、地産地消につながっていく部分での梨のカタログ販売や、花見山のフレーム切手を作り福島の良さのPR、朝ドラ「エール」の関係でフレーム切手や古関裕而先生にちなんだポストを作り、そこで投函していただくと古関裕而先生をモチーフとした消印を押すという形で地元を盛り上げるような取組をしております。

●三井住友海上火災保険株式会社 佐藤 海帆さん

保険代理店様の商品販売の指導に当たったり、品質向上の指導をしたりしております。

地域包括協定を結ばせていただいたことを機に、毎月グループ会社が行う各種セミナーのご案内や、女性社員が女性の働き方セミナーを開催したり、高齢者の安全運転セミナーを企画させていただいたりしております。

●イオン東北株式会社 森谷 直樹さん

肉や魚、野菜以外、賞味期限の長いお菓子やカップラーメンや飲料、お酒、地場の名店品である三万石さんや柏屋さんなどの販売をしております。他にも、バレンタインやホワイトデー、コーギーコーナーのケーキなどを担当しております。

●福島財務事務所 渡邊 美和子さん

東北を管轄といたしまして、財務省と金融庁の業務の一部を行っている国の行政機関で、主な業務内容は、地域経済の調査や金融に関することなどを行っていますが、私自身は、広報の担当をしております。

包括連携協定では、定期的に企業立地にかかる意見交換会を地域金融機関様にご協力をいただきながら例年1回程度行っている状況でございます。

●損害保険ジャパン株式会社 渡邊 優希さん

台風や地震のときに皆さまにお役に立てるように日頃のリスクに備えていただくことを広めるというお仕事をしています。

連携協定の中では、移住応援団の取組みで、不動産会社や車関係の業者など、複数の業種の方とお取引をさせていただくことが多いので、福島市にこれから住まわれる方に住み始めのお手伝いとして複数の業者をつなぐというところを目標に活動をさせていただいているところです。



(2) 福島市への提言

①安全・安心に関する意見

- 福島市の魅力について考えたときに、行政都市でありながら美しい自然が多いということが魅力的なポイントかと思うのですが、自然がすぐそばにあるということで、自然のリスクも顕在化しているのかなと考えております。自然が近いならでのリスクをいかにコンサルティングできるかが非常に大きな課題になってくるのかなというところを感じました。
- どういう町に住みたいかと考えたときに、福祉や医療の体制が整っている地域がいいと感じます。医療機関の方々とお話ししているときに、救急の患者さんが宮城県で受け入れてもらえるところがなくて福島市まで来たというのを聞きし、患者さん本人も、ご家族の方もきっとすごく不安だろうなと思い、長い間住みたいと思う町には、小さいお子さんも、高齢の方も、救急の体制が整った地域が必要だと感じました。
- 福島に住み初め、車を購入し冬を迎えました。除雪について車道のほうはある程度やっていただけているのですが、歩いている人が歩きづらそう雪があるから車道に出て歩こう、自分も雪の運転に慣れていないので、運転が怖いと感じました。

市長	○住まいを見つけるときに小児の夜間急病の対応をしている施設のそばなんかを考える、若い世代もそうだし、高齢者になると、自分のその住まい、特に移住をするときに、最後の決め手になるのが医療ですよね。 ○除雪は至っていないところが非常に多くて、今いろいろな面で改善しています。事業所をお持ちのところは自分のところだけじゃなくて、その前の歩道なんかもぜひ雪かきをお願いしたいなと思っています。これは、呼びかけでもしておりますし、それから、まず真っ先に市役所でやらなきゃいけないと思って、市役所の施設も率先してやるようにしていますので、ぜひそうしたものもお願いできればというふうに考えております。
----	---

②子育て・教育に関する意見

- さんどパークや、児童公園があるのですが、全体的に見ると数が、福島市民の人口に対して少ないのかなと考えています。土日であると、駐車場が非常に少ないので早い時間に行かないと入れないです。
- 市内中心部に大きな公園があれば、子育て世代中心に非常ににぎわいのある、集うというような憩いの場になり、より活性化にもつながってくるのではないかと考えます。
- 子どもを育てるときに、幼稚園・保育園を選ぶ中でその補助がいい市町村を選択される若い世代の方が多い中で、女性が働く環境を整えていくのであれば、若年層に向けての子育て支援というのを強烈にアピールすることが非常にいいのかなと思います。
- 子育てという部分で、子どもの服、大人の普段着の服が一箇所で買えるというような大型の商業施設があったらいいなというのは、一緒に働いている人から話が出ています。
- どこに定住しようと考えたとき、子どもの成長の可能性が広がるような都市に住みたいと思っており、子どもの教育環境、例えば、放課後教育だとか土日だとか、子どもの成長の可能性を広げるような事業に取り組んでいますみたいなものを発信したら、住みたいと思う方は増えるのかなと思います。また、福島でせっかく関わった人が福島に住みたいと思ってもらうことのほうが、人口を増やす効果は

上がってくると考えると、いかに福島がいい土地なのか、住みやすい土地なのか、小・中・高の教育現場で地元愛が増えるような教育ができればいいと思っております。

- 幼稚園・保育園の現況届を市役所や支所に届けに行くことが前提で送付されると負担に思ってしまう。窓口に行かなくても郵便やウェブでいいというのがスタンダードになると良いと思います。また、保育園の入園決定通知が2月にならないと分からないことが、親自身の就労機会や、小規模企業の雇用主側としても継続雇用の判断などにも関わってきますし、入園通知は早くいただけないものかなと思ったことがあります。

市長	<p>○まちなかに公園とか緑が意外と少ないですが、一方で、信夫山あるいは河川敷があって、そこには公園があるんですが、公園として扱ってもらっていないというか、身近に行く場所になっていないような感じがするんですね。そこを生かすだけでも大分違うかなという感じがします。</p> <p>○教育で選ばれる町にしたいということで、ICT教育を始めました。例えばコロナ禍で福島市は子どもたちに毎日タブレットを持って帰らせているんです。下校した後も陽性者が出たらすぐに学級閉鎖をして、翌日はオンライン授業できちゃうんです。こういうのも継続的な取り組みがあって、ブランド化していくというのが大事だと思うんですね。そういう点では、子育て・教育なら福島だというのはブランド化するように、これからも取り組みを続けて、そしてまた情報発信もしていきたいというふうに思います。</p> <p>○保育園の通知も今まで手作業でやっていたから時間かかったんですけども、AIを入れて格段に時間が上がりました。ご指摘踏まえてスピードアップしたいし、あとは、やっぱりこれまで子育て世代への情報提供として、ホームページなどを通じて本市の子育て支援とか子育て環境はこうなっていますよというのが全然分らなかったですね。子ども関係のウェブページも全面リニューアルし、特色ある教育もビデオのプロモーションができますので、ぜひそういったものも使っていただければというふうに思っています。</p>
----	--

③産業

- 人口減少の課題に対して、人が住むためには、働く場所がないといけないと思っていて、既存の会社を応援することと、新しい産業を呼び込んでくるということが必要だと考えています。コロナがあったことによって、首都圏でなくても仕事ができたり、いろんな面でコストがかからなかったり、伸び伸び暮らせたりと、地方の優位性が上がっていると思っています。働く場所を作るときに、雇用の確保というのも企業にとっては大きな課題となると思いますので、その人材面での支援というところを自治体として何か後押しできる取り組みがあると呼び込みやすい環境を作れるのではないかなというふうに考えています。
- デジタル化という部分で、窓口でご高齢の方もいらっしゃるんですが、どんどんデジタル化が進んでいるのですが、なかなかなじめない方もいらっしゃるのも現実です。いかにデジタル化になじみにくい人が扱いやすく簡便にできるかが福島市だけでなく、我々企業としても必要なのかなと感じております。
- デジタル化や産業の誘致ということで、首都圏のほうがいっぱい企業があり、自分の可能性をいろいろ試せるチャンスが増えるというところで、首都圏に流れてしまう同年代が多いという印象を受けています。コロナ禍で在宅勤務とかテレワークとか、どこにいてもいろんな仕事ができるといういい流れになってきていると思いますので、産業の誘致とデジタル化というところを特化して取り組んでい

ただ、福島にいるから諦めようという若者が少なくなる福島市になっていったらいいなと思っております。

市長 ○人口減少対策をやるにも、都市としてのグレードアップが大本にないとうしようもないということで、産業を呼び込むとか、あるいは特に新産業だと単に個別だけじゃなくて、いわゆるクリエイティブな人たちの交流、あるいは集積によるいろいろな付加価値というものがこれから大切になるかなと思って進めているところです

○高齢者とか苦手な人でもできるデジタル化というのをいかに広げていくかというのが、これから一番鍵になると思っていて、人に優しいデジタル化というのを地域の企業の皆さんと力を合わせてやっていかなきゃいけないと思うんです。中小企業でも、電子決済など、何かしらやらざるを得なくしていく仕掛けが重要だと思っております。

○逆転の発想で災難を逆にプラスとするような取り組みをやってきているつもりなんです。福島は確かに原発があって、事故があって、福島というと非常に世界的にはマイナスイメージでとられがちなんですけれども、逆にこれだけ知名度のある町はないです。福島から世界でやるとして、私は福島で仕事をしていますと言うと、それだけで一目置いてもらえるんですよ。その点では福島というのは、非常にチャレンジのしがいがあると思っています。

④にぎわい・文化に関する意見

- 今若者の車離れとかお酒離れとかいろいろ○離れというのが頻りに話題に上がることがありますが、今の福島市の現状だとお金をぱっと使うようなところが少ないような気がして、ボーナスが入ったとしても、使うつもりないとか、あまり欲しいものとかもないし、貯金するよという方が結構いらっしやるので、使うところがあれば、若者も年齢重ねられている方も使うと思うので、そういった場所を提供するというのが必要になってくるのではないかと思います。
- 幼・小・中・高の現在福島市にいる学生たちを福島市の地元愛に根付かせることができないのかというふうに考えています。わらじまつりや稲荷神社の祭りなど、イベントごとにもっと大きいものを作ると地元愛が根付くのではないかと思います。
- 福島駅前のにぎわいについて福島市で着手されているのですが、今度我々も一緒になって、やっていかなければいけないのだろうという、責務というところとちょっと大げさですけども、そういったものを感じているところです。
- 若い人の楽しみをどれだけつくれるかということだと思っております、例えば駅前の商業施設の充実ということで、洋服の年代層など若い人のニーズに合った商業施設というものが増えたらいいなと思います。また、カフェとか飲食店とかすてきなお店がたくさんあるのですが、駅前にはなくて、車を使わないといけないところが多く、若い学生とかはなかなか行くのが大変になってしまい、身近に行ける都市部に魅力を感じてしまって、若者がそちらに流出してしまうということもあるかなと思うので、駅前とかアクセスのしやすさとかも変わっていったらいいなと思います。
- パークアンドライドについて、使ってみたことがあるのですが、バスの運転手が券をちゃんと分かってきているのかなとか、あと車内が夏ですごく暑くて、こどもという環境じゃないなという車輻にたまたま当たってしまったたり、バスがもっと快適であれば、また使いたいと思います。利用した当時は、周知がまだされておらず盛り上げてほしかったなということが正直ありました。

- 駅前駐輪場がなくなり、三角広場のところに造っていただいていると思うんですけども、すごくいいところだと思うので、ずっとそこにあり続けていただけないかなと思いました。
- 以前に飯坂温泉や文知摺観音、岩谷観音などの芭蕉ゆかりのところを巡って、非常にいいなと思いました。ただ、お盆に伺わせていただいたとき、お盆と言えば繁忙なシーズンなのかなと思うんですけども、いかんせん人がいないなという印象が率直にありました。こういうものって一定の層には非常にいい意味で受けるのかなと思いますので、PRとかをしていって、人の流れを作れるとよりよくなるんじゃないかなと思います。

市長 ○福島の弱点として、これまでは地元の視点しかないんです。あまりほかから呼ぶ、あるいはほかにも自慢できるようなものにするというのが弱くて、だからいろんなイベントも自分たちの身内だけでやれるようなものばかりになっている面があるんですよ。そこをいろいろ変えようとしておりまして、例えばスポーツの話であれば、これもやっぱり内向きで、マラソン大会は健康マラソンと、まさに市民向けだったものをふくしまシティハーフマラソンという形で真ん中でやろうとか、そんなことも考えています。外もしっかり見ながら、内をいいところの見直しをして、そしてそれを高めていくというのが大事だと思います。

【3 まとめ】

限られた時間で、かつ話す時間も少なかったと思いますが、皆さんの異業種交流という面でもひとついっきっかけになっていただけると私もうれしいなと思います。そして、ぜひ皆さんのさまざまな視点を市にご提供いただくと同時に、プレーヤーとしても若い力を積極的に発揮していただくようお願い申し上げます。ありがとうございました。

